**城と町**

元々の姫路城の防御施設は主要な城の敷地を越え、堀と土の堤防で守られたいくつかの近隣地域を含む。この地域全体がしばしば集合的に姫路城と言われる。居住者は社会的身分により居住場所が与えられていて、身分の高い武士は中心部の近くに、商人と職人は中堀の外側の地域に住んでいた。

城の外には城より以前から存在するいくつかの村があった。城が建設され、人々が成長しつつある町に移住してきたあとに新しい村々ができた。

新しい地域には材木町や鷹匠町を含んだ居住者の職業によって名付けられたものもあった。

この縮尺モデルは酒井一族の支配の間に創られた詳細な建築図解を元にしている。酒井一族は1749年から1868年まで姫路を監督していた。このモデルの土地の境界は地図のそれらと合致するが、建物と植物はこの芸術家の想像である。